

教 科 科 目	国語 現代の国語（現代文・評論）	学年	4 年	単位	1 単位	担当	野見山 和也
【科目の概要】 近代以降の評論を学習していくなかで、国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、論理的思考力や想像力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てていくことを目的とします。							
【育成をめざす学力】 ① 自学（予習・復習など）できる力 ② 語彙・文法に関する基礎的な力と、それをふまえた比喩や象徴表現を理解する力 ③ 多様なテーマの評論を、論理的に読解する力 ④ テキストの内容を自分の知識や考え方、経験と結びつけて表現する力 ① ⑤ 出題形式に応じて解答できる力（問いと答えの照応力）							
【評価基準・評価項目】 ・文章の読解に必要な語彙や、実社会に必要な国語の知識が身についている。 ・必要に応じて、事前に予習を行うことができる。 ・文章構成・展開を理解することができる。 ・筆者の主張を捉えることができる。 ・設問に過不足なく答えることができる。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月	「生きもの」として生きる						
5 月	「本当の自分」幻想						
6 月	水の東西						
7 月	無彩の色						
8 月	【対比】「間」の感覚（高階秀爾）・【具体と抽象】日本語は世界をこのように捉える						
9 月	「文化」としての科学						
10 月	現代の「世論操作」						
11 月	フェアな競争						
12 月	【事実と意見】「私作り」とプライバシー・【推論】AI は哲学できるか						
1 月	不均等な時間						
2 月	ロビンソンの人間と自然						
3 月	【主張と根拠】デザインの本意・【主張と反論】「動機の語彙論」という視点						

教 科 科 目	国語 言語文化（現代文・小説、 詩歌）	学年	4 年	単位	1 単位	担当	野見山 和也
【科目の概要】 近代以降の小説・詩歌を学習していくなかで、国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、効果的に表現する力を高めるとともに、論理的思考力や想像力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てていくことを目的とします。							
【育成をめざす学力】 ① 自学（予習・復習など）できる力 ② 語彙・文法に関する基礎的な力と、それをふまえた比喩や象徴表現を理解する力 ③ 多様なテーマのを、論理的に読解する力 ④ テキストの内容を自分の知識や考え方、経験と結びつけて表現する力 ⑤ 出題形式に応じて解答できる力（問いと答えの照応力）							
【評価基準・評価項目】 ・文章の読解に必要な語彙や、実社会に必要な国語の知識が身についている。 ・必要に応じて、事前に予習を行うことができる。 ・文章構成・展開を理解することができる。 ・登場人物の心情を読み取ることができる。 ・設問に過不足なく答えることができる。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度が身についている。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月	羅生門						
5 月	羅生門						
6 月	砂に埋もれたル・コルビュジエ						
7 月	一つのメルヘン・自分の感受性くらい						
8 月	I was born						
9 月	夢十夜						
10 月	夢十夜						
11 月	鏡						
12 月	鏡						
1 月	城の崎にて						
2 月	城の崎にて						
3 月	その子二十						

教科 科目	国語 言語文化（古文）	学年	4 年	単位	1 単位	担当	恒住 典子
【科目の概要】 「言語文化」の中の古文の基礎を学んでいく科目です。さまざまな古文の文章を読むことで、人間・社会・自然などについて、自分の考えを深めていきます。また、語句の意味・用法・文法など古文を読むための基礎的な知識を理解し古文特有の文体や修辞などの表現上の特徴をとらえられるようにします。伝統的文化や言葉を大切にしながら、生活様式や、美意識、価値観を学び、その生き方を豊かに広げていく一助としていきます。							
【育成をめざす学力】 ① 自学（予習・復習など）できる力 ② 古語・文法事項・古典常識などに関する基礎知識力 ③ 多様なテキスト（韻文・物語文・随筆思想・史伝など）を読解する力 ④ テキストに書かれていることを自分の知識や考え方、経験と結びつけて表現する力 ⑤ 入試の出題形式に応じて解答できる力							
【評価基準・評価項目】 ・古文の音読ができる。 ・古文の正確な現代語訳ができる。 ・古文の詩歌の解釈ができる。 ・作者の執筆意図を理解できる。 ・作品に描かれた思想・感情・文化を理解できる。 ・ ・古典世界と現代との関連性を見出すことができる。 ・文学史を理解できる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月	宇治拾遺物語「児のそら寝」						
5 月	宇治拾遺物語「絵仏師良秀」						
6 月	伊勢物語「芥川」						
7 月	伊勢物語「東下り」						
8 月	伊勢物語「筒井筒」						
9 月	枕草子「はしたなきもの」「九月ばかり」						
10 月	枕草子「中納言参りたまひて」土佐日記「門出」						
11 月	土佐日記「亡児」「帰京」						
12 月	徒然草「ある人、弓射ることを習ふに」「花は盛りに」						
1 月	平家物語「木曾の最期」						
2 月	奥の細道「旅立ち」「立石寺」						
3 月	万葉集・古今和歌集・新古今和歌集 問題演習						

教 科 科 目	国語 言語文化（漢文）	学年	4 年	単位	1 単位	担当	恒住 典子
【科目の概要】 漢文の訓読の決まりを身につけて、音読ができるようにしていきます。語句・句法などを理解し、現代語訳や解釈・鑑賞ができるようにします。また漢文作品を読むことで、漢文の文章の特徴を知り、人間の生き方・中国の歴史・思想などについて自分の考え方を深めていきます。先人たちの価値観や考え方を学び、文化を継承していく姿勢を身に付けていきます。							
【育成をめざす学力】 ① 自学（予習・復習など）できる力 ② 古語・文法事項・古典常識・漢文句法などに関する基礎知識力 ③ 多様なテキスト（漢詩・物語・随筆・思想・史伝など）を読解する力 ④ テキストに書かれていることを自分の知識や考え方、経験と結びつけて表現する力 ① ⑤ 出題形式に応じて解答できる力							
【評価基準・評価項目】 ・漢文の音読ができる。 ・漢文の正確な現代語訳ができる。 ・漢詩の解釈ができる。 ・登場人物の心情説明等、設問形式に応じた解答ができる。 ・作品の時代背景や価値観、文学史的な意義などを理解し、表現できる。 ・漢文の世界と現代との関連性を見出すことができる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月	訓読に親しむ						
5 月	故事「漁夫之利」						
6 月	故事「狐借虎威」「蛇足」						
7 月	十八史略「完璧」						
8 月	十八史略「完璧」						
9 月	十八史略「先従隗始」						
10 月	十八史略「臥薪嘗胆」						
11 月	唐詩の世界						
12 月	思想「論語」						
1 月	文「桃下源記」						
2 月	日本の漢詩						
3 月	語彙、漢文句法の復習						

教科 科目	歴史総合	学年	4 年	単位	2 単位	担当	古賀 倫子
【科目の概要】 世界に衝撃を与えたロシアのウクライナ侵攻は先の見えない混乱の時代を予感させ、国際紛争のみならず、環境問題、人口問題、経済格差など、現在、世界にはグローバルな視点からの解決が求められる課題が山積している。問題解決には民族・宗教・ことばなど文化の違いを越えた対話と相互の文化理解が前提となる。文化は歴史に影響を受けており、また現在の課題も過去の延長線上に発生している。私たちが幸せな未来を志向するほど、歴史の学びは大切となる。今年度から新設された「歴史総合」では、歴史を遡ることで現代諸課題の起源を知り、歴史を多面的に考察することで、現代諸課題の解決方法を発見し、より良い未来をつくるための提案を提示できる力を養う。							
【育成をめざす学力】 ・近現代史を理解するために必要な基本用語を習得する力 ・近現代史に関わる歴史資料の読解を通して歴史的事象を適切・効果的にまとめる力 ・近現代史の事象の意味・意義・特色を多面的に考える力 ・近現代史が現代社会に与えた影響を考える力 ・現代社会の特徴から近現代史の功罪を考える力 ・近現代史の功罪から現代社会の課題を発見し、解決方法を考える力 ・歴史を学ぶ意義を理解し、歴史への興味・関心を高める。 ・学習活動を通じ、自己の学習状況や学習姿勢を検証し、改善する力							
【評価基準・評価項目】 ・学習した基本用語を正確に暗記し、表記できる（社 A ①） ・基本用語同士の関係を図式化し、単元の学習内容について整理できる（社 A ②） ・基本用語を使って、単元の学習内容について説明できる（社 A ③） ・単元の学習内容を通じて、各地域・時代の「人間理解」「社会認識」の特殊性・普遍性を判断できる（社 B ①②） ・各地域・時代の「人間理解」「社会認識」について自分の価値観に照らして評価できる（社 B ③） ・社会問題から解決課題を発見し、学習内容を活用しながら解決策を提示できる（社 C ①～⑤） ・学習過程において図版、地図、グラフ、文章等の資料を読み取ることができる（社 A ④） ・学習過程において必要な情報を収集し、図版、地図、グラフ、文章等の資料として提示できる（社 B ④、C ①～⑤） ・学習成果を通じて、学習内容に関する習得、理解、活用状況を検証し、改善できる（社 A ⑤、B ⑤、C ⑥） ・学習過程を通じて、世界史学習の意義を理解し、興味・関心を喚起できる（社 C ⑦）							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月	近代化と私たち 1 近代化の胎動						
5 月	1 近代化の胎動 2 欧米の市民革命と国民国家の形成						
6 月	2 欧米の市民革命と国民国家の形成						
7・8 月	3 アジアの変容と日本の近代化						
9 月	4 帝国主義の時代						
10 月	4 帝国主義の時代 国際秩序の変化・大衆社会と私たち 5 第一次世界大戦と大衆社会						
11 月	6 経済危機と第二次世界大戦						
12 月	6 経済危機と第二次世界大戦 グローバル化と私たち 7 戦後の国際秩序と日本の改革						
1 月	7 戦後の国際秩序と日本の改革						
2 月	8 冷戦と脱植民地化						
3 月	9 グローバル化と現代社会						

教 科 科 目	地理総合	学年	4 年	単位	2 単位	担当	古賀 彩香
【科目の概要】							
現代の世界は、かつてないほどに地域間の交流が深まり、それに伴い、経済格差・国際紛争・環境問題・人口問題など解決を迫られた問題が山積している。こうした問題を解決するには、人間世界の発展の歴史という時間を指標にした縦軸と、現在の視点で世界の諸地域の成り立ちや相関連を理解する横軸の視点が必要である。地理では、この横軸として世界各地が どのような自然的立地条件によって成り立ち、どのような経済・政治状態で発展し、お互いにどのような関連で結びついているかを理解し、それらの狭間で起こっている諸問題について、解決の糸口を探りたい。							
【育成を目指す学力】							
・学習した基本用語を習得する力、学習内容を人間理解や社会認識につなげる力 ・世界の国々や地方の、地域の特性について、一般性と特殊性、個別性を理解する力 ・地図化された資料、図式化された諸資料を読み取り、その中から問題解決に必要な具体的事実を提示する力 ・事象を諸地域との関連上で思考する地理的見方・考え方でとらえ、図式化、地図化する力 ・諸地域の個別の学習から、世界規模の課題を発見し、説得力ある改善の方策を探り表示する力							
【評価基準・評価項目】							
評価基準・評価項目							
・基本用語を正確に暗記し、表記できる。(A①) ・各地域についての基本用語同士の関係を把握し、図式化できる。(A②) ・提示された資料から、各地域の特徴を読み取り、特徴の判断に必用な情報を抽出できる。(A④) ・各地域の社会観や人間観に対する判断に必用な資料を収集指定時できる。(B④) ・各地域の社会観や人間観を推測し、自分の見かたとして説明できる。(B②) ・地図化された資料、図式化された諸資料を読み取り、その中から問題解決に必要な具体的事実を独自の視点から考えることができる。(C②) ・学習過程を通じて、地理学習の意義を理解し、興味・関心を喚起できる。(C⑦)							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月	第 1 部 地図でとらえる現代世界 第 1 章 地図と地理情報システム 1 節 地球上の位置と時差 2 節 地図の役割と種類						
5 月	第 2 章 結びつきを深める現代社会 第 2 部 国際理解と国際協力 第 1 章 生活文化の多様性と国際理解 1 節 世界の地形と人々の生活（大地形・変動帯・河川地形・海岸地形・氷河地形・乾燥地形）						
6 月	2 節 世界の人々の生活（気温・降水量・大気の循環・植生と気候区分）						
7 月	追及事例（オセアニアでの生活、東南アジアでの生活）						
8 月	3 節 世界の言語・宗教と人々の生活						
9 月	追及事例（イスラーム、ヒンドゥー教） 4 節 歴史的背景と人々の生活 追及事例（ラテンアメリカ、サハラ以南アフリカ、ロシア）						
10 月	5 節 世界の産業と人々 追及事例（アメリカ合衆国、東アジア、ヨーロッパ）						
11 月	第 2 章 地球的課題と国際協力 1 節 複雑に絡み合う地球的課題（SDG s について） 2 節 地球環境問題 3 節 資源・エネルギー問題 4 節 人口問題						
12 月	5 節 食料問題 6 節 都市・住居問題						
1 月	第 3 部 持続可能な地域づくりと私たち 第 1 章 自然環境と防災 1 節 日本の自然環境 2 節 地震・津波と防災						
2 月	3 節 火山災害と防災 4 節 気象災害と防災 5 節 自然災害への備え						
3 月	第 2 章 生活圏の調査と地域の展望 1 節 生活圏の調査と地域の展望						

教 科 科 目	数学 数学Ⅰ	学年	4 年 B 組	単位	3 単位	担当	矢野 美保
【科目の概要】 中学まで扱ってきた数を実数として体系化し、2 次方程式について解の公式利用までの解法を学び、応用として図形的な分析力の定着を図る。また実数解の有無について判別式を用いて考察する。 2 次関数では2つの数の対応と変化の関係を関数の概念を用いて把握・表現し、具体的な事象の考察や2 次不等式を解くことに活用する。 図形と計量においては初めて三角比を定義し、三角形の辺や角の間に成り立つ定理を導き具体的な事象の考察や計量に活用する。またデータの分析では、様々なデータを整理・分析し、相関を読み取り考察していく。本科目では数学における基礎的な知識・技能の習熟を図り、それらを問題解決の場面で的確に活用する能力を伸ばしていく。数学的なものの見方や考え方のよさを認識し、それらを積極的に活用できるようにしていくことが目標である。							
【育成をめざす学力】 数学が高度に抽象化されていくプロセスを体験しながら、数学的読解力・思考力を育てる。進路に向けては、国立大2次試験に十分対応できる基礎学力と応用力を養う。 ①基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、 <u>基礎的な知識を習得し活用できる力</u> （A） ②色々な事象を数学的に考察して的確に <u>情報を取り出す力</u> （C）、 <u>取り出した情報を表現できる力</u> （C）、熟考して処理する仕方や推論の方法を身に付け <u>的確に問題を解決できる力</u> （BDE）・ <u>表現できる力</u> （F） ② 数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ <u>論理的に考える力</u> （D） ③ 数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に <u>活用する力</u> （G）							
【評価基準・評価項目】 （下記の事柄を理解し、覚えて、活用することが出来るか）							
○数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。		○命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。			○数学のよさを認識し数学を活用しようたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深り、評価・改善したりしようとしている。		
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4・5月	数Ⅰ	第1章：数と式 第1節 式の計算 第2節 実数					
6・7月	数Ⅰ	第3節 1次不等式 第2章： 集合と命題					
8月	数Ⅰ	第3章：2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化 第3節 2次方程式と2次不等式					
9月	数Ⅰ	第3節 2次方程式と2次不等式					
10月	数Ⅰ	第4章： 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角比への応用					
11月							
12月							
1月	数Ⅰ	第2節 三角比への応用					
2・3月	数Ⅱ	第1章：式と証明					

教 科 科 目	数 学 数学Ⅰ（数Ⅱの一部）	学 年	4 年 A 組	単 位	3 単位＋1	担 当	矢野 美保			
【科目の概要】 第1章では最初に数を文字で置き換えた式を扱う学問である「代数学」の導入として、多項式の積や因数分解など、「式の算術」を学ぶ。次に、中学校までは漠然と捉えていた「数」を自然数⇒整数⇒有理数⇒無理数と分類し「実数」として体系化し、更にこれを「数直線」として「幾何的」（図形的）に捉えさせ、これらをもとにした方程式や不等式の解法を学んで「代数学」の入り口とする。また集合論を土台として、20 世紀に生まれて発展した論理学（特に記号論理学）の考え方の入り口を学ぶ。第2章では、特に関数を扱う「解析学」の導入として「2次関数」を学び、「数直線」を発展させた「座標平面」と「グラフ」を導入し、方程式や不等式を関数の立場から捉えて「解析幾何」の入り口とする。第3章では、図形の解析的な捉え方の導入として「三角比」をその手段として学び、「正弦定理」「余弦定理」などを用いて主に平面図形の「代数的」「解析的」な分析を体験する。更に、ごく初等的ではあるが、平面図形にとどまらず、立体の体積や表面積を解析的に捉えることを学ぶ。第4章では、データの分析について学ぶ。 以上のようなことから、本科目では初等数学の導入とし、数学における基礎的な知識・技能の習熟を図り、それらを問題解決の場面で的確に活用する能力を伸ばしていく。										
【育成をめざす学力】 数学が高度に抽象化されていくプロセスを体験しながら、数学的読解力・思考力を育てる。進路に向けては、国立大2次試験に十分対応できる基礎学力と応用力を養う。 ①基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、 <u>基礎的な知識を習得し活用できる力</u> （A） ②色々な事象を数学的に考察して的確に <u>情報を取り出す力</u> （C）、 <u>取り出した情報を表現できる力</u> （C）、熟考して処理する仕方や推論の方法を身に付け <u>的確に問題を解決できる力</u> （BDE）・ <u>表現できる力</u> （F） ④ 数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ <u>論理的に考える力</u> （D） ⑤ 数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に <u>活用する力</u> （G）										
【評価基準・評価項目】 （下記の事柄を理解し、覚えて、活用することが出来るか） <table><tr><td>○数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。</td><td>○命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。</td><td>○数学のよさを認識し数学を活用しようたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしている。</td></tr></table>								○数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	○命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。	○数学のよさを認識し数学を活用しようたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしている。
○数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	○命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。	○数学のよさを認識し数学を活用しようたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしている。								
【年間指導単元・内容と学習活動】										
4・5月	数Ⅰ	第1章：数と式	第1節 式の計算	第2節 実数						
6月	数Ⅰ	第2章：集合と命題	第3節 1次不等式							
7月										
8・9月	数Ⅰ	第3章：2次関数	第1節 2次関数とグラフ 第3節 2次方程式と2次不等式	第2節 2次関数の値の変化						
10・11・12月	数Ⅰ	第4章：図形と計量	第1節 三角比	第2節 三角形への応用						
1月	数Ⅰ	第4章：図形と計量	第2節 三角形への応用							
2月	数ⅠⅡ	数学Ⅰ問題演習	第1章：式と証明							
3月	数Ⅱ	第2章：複素数と方程式の解								

教科 科目	数学 数学A	学年	4 年	単位	2 単位	担当	宮原 望 出来 三博
【科目の概要】 1 章「場合の数と確率」では、図表示などを用いて集合についての基本的な事項を理解し統合的にとらえることや具体的な事象の考察などを通して順列・組み合わせについて理解し、不確定な事象を数学的にとらえることの有用性を認識するとともに事象を数学的に考察し、処理できるようにする。3 章「整数の性質」では、既習事項から新たな性質を見つけ出す過程を通して、発見や創造の仕方を学び、それらが活用できるようにする。							
【育成をめざす学力】数学が高度に抽象化されていくプロセスを体験しながら、数学的読解力・思考力を育てる。進路に向けては、国立大 2 次試験に十分対応できる基礎学力と応用力を養う。 ①基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を習得し活用できる力（A） ②色々な事象を数学的に考察して的確に情報を取り出す力（C）、取り出した情報を表現できる力（C）、熟考して処理する仕方や推論の方法を身に付け的確に問題を解決できる力（BDE）・表現できる力（F） ② 数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ論理的に考える力（D） ③ 数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用する力（G）							
【評価基準・評価項目】（下記の事柄を理解し活用することができるか）							
○図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○数学と人間の活動の関係について認識を深めている。 ○事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。		○図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見だし，論理的に考察する力，不確定な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見だし，数理的に考察する力を身に付けている。			○数学のよさを認識し数学を活用したり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断したりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。		
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月 5 月	数学 A	準備 集合 第 1 章：場合の数と確率 第 1 節 場合の数					
6 月	数学 A	第 2 節 確率					
7 月	数学 A	第 2 節 確率					
8 月	数学 A	第 2 節 確率					
9 月 10 月	数学 A	第 2 節 確率 第 2 章：図形の性質 第 1 節 平面図形					
11 月	数学 A	第 1 節 平面図形 第 2 節 空間図形					
12 月	数学 I	第 5 章 データの分析 第 1 節 データの整理，データの代表値					
1 月	数学 I	第 2 章 データの散らばりと四分位数					
2 月	数学 I	第 3 章 分散と標準偏差 第 4 章 2 つの変量の間の関係					
3 月	数学 II	第 1 章：式と証明					

教科 科目	化学基礎	学年	4 年	単位	2 単位	担当	山内 かな子
【科目の概要】 化学基礎では、化学の基本的な概念や原理・法則を理解するために、物質の構成・物質と化学結合・物質の変化を学びます。実験・観察を通して、化学的に探究する方法を身に付けます。それらの学びを日常生活に関連させ化学への関心を高めていきましょう。化学が未来に向けて何ができるかを考えていきます。							
【育成をめざす学力】 (1)化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、化学的に考える力 (2)文章・図・グラフを読み取る力 (3)自身の考えや思考プロセスを適切な方法で表現する力 (4)興味関心をもって学び、自らを振り返り学力向上に努める姿勢 (5)他者を尊重し、共同学習する姿勢 (6)安全に配慮し、実験・観察を行う姿勢							
【評価基準・評価項目】 知識・技能…日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。(評価材料：定期テスト、小テスト、実技テスト) 思考・判断・表現…物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。(評価材料：定期テスト、小テスト、レポート、プレゼンテーション) 主体的に取り組む態度…物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。(評価材料：振り返りシート、レポート、授業ノート、調べ学習や研究作品、小テスト、プレゼンテーション)							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月	序章 化学と人間生活 1 章 物質の構成 1 節 物質の探究						
5 月	1 節 物質の探究						
6 月	2 節 物質の構成粒子						
7 月	2 章 物質と化学結合 1 節 イオン結合						
8 月	2 節 共有結合と分子間力						
9 月	3 節 金属結合 4 節 化学結合と物質						
10 月	3 章 物質の変化 1 節 物質質量と化学反応式						
11 月	2 節 酸と塩基						
12 月	2 節 酸と塩基						
1 月	3 節 酸化還元反応						
2 月	3 節 酸化還元反応						
3 月	探究活動						

教 科 科 目	生物基礎	学年	4 年	単位	2 単位	担当	廣田 裕枝
【科目の概要】 生物学は、私たちにとって最も身近な科学です。なぜならそれは、生物としての自分自身を知ることであり、そこから見えてくる普遍的な生命現象を理解することだからです。最近の科学の進歩はめざましく、医療や遺伝子工学、環境科学の技術は一般人の理解を超えているように思われがちです。しかし、生物基礎の授業の中で、基礎的な知識、根本的原理を学んでいくことによって、それらを理解し、身近なものとして考えられるようになるはずです。ぜひ、身の回りの自然現象や最先端の科学に興味を持ち、楽しんで授業を受けてください。							
【育成をめざす学力】 (1) 興味や関心をもって身近な現象や先端技術をとらえようとする力。 (2) 自然の事物や現象の知識を身につけ、自然のしくみや法則等を理解することのできる力。 (3) 学習の方法やその工夫を考え基本事項を正確に理解し、定着させる力。 (4) 資料（文章・グラフ・表など）を正確に読解する力。分析したり考察したりする力。 (5) 根気強く、速く、正確に計算する力。単位の意味を理解し、正しく活用することができる力。							
【評価基準・評価項目】 知識・技能…日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。（評価材料：定期考査、小テスト、実技テスト） 思考・判断・表現…生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。（評価材料：定期考査、小テスト、実験・観察レポート、調べ学習や研究作品、プレゼンテーション） 主体的に取り組む態度…生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。（評価材料：振り返りシート、レポート、授業ノート、調べ学習や研究作品、小テスト、プレゼンテーション）							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月	第 1 編 生物と遺伝子	第 1 章	生物の特徴				
5 月		第 1 章	生物の特徴				
6 月		第 2 章	遺伝子とその働き				
7 月		第 2 章	遺伝子とその働き				
8 月	第 2 編 生物の体内環境の維持	第 3 章	生物の体内環境				
9 月		第 3 章	生物の体内環境				
10 月		第 3 章	生物の体内環境				
11 月	第 3 編 生物の多様性と生態系	第 4 章	植生の多様性と分布				
12 月		第 4 章	植生の多様性と分布				
1 月		第 4 章	植生の多様性と分布		第 5 章	生態系とその保全	
2 月		第 5 章	生態系とその保全				
3 月		第 5 章	生態系とその保全				

教科 科目	音楽Ⅰ	学年	4年	単位	2単位	担当	佐野 智江
【科目の概要】							
皆さんは小学校で6年間、中学校で3年間、計9年間音楽を受講してきたと思います。そして、今年が10年目の音楽の授業となるわけですが、全員必修科目としての音楽の授業は今年度で最後です。そこで、本科目ではまず、日常生活の中において音楽と関わる中で必要と思われる基礎知識を学びます。さらに、様々なジャンルの音楽を紹介することで、個人のもつ音楽の受け皿を大きくし、音楽を愛好する心を育てます。							
【育成をめざす学力】							
・音楽を学ぶ上で必要な基礎知識の習得。 ・音楽を愛好する心の育成。							
【評価基準・評価項目】							
○知識・技能：音楽知識の理解。歌唱、創作技能。音楽史とその時代の歴史や文化の理解。（定期考査、実技テスト）							
○思考・判断・表現：歌唱表現、創作表現の工夫。鑑賞を通して音楽の特徴を感じ取る思考。（定期考査、実技テスト、創作活動）							
○主体的に取り組む態度：歌唱、創作、鑑賞活動への意欲。（授業中の取り組みや態度）							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	音名、拍子について（音楽基礎知識の学習） 讃美歌について 中学校既習曲（歌唱）の復習						
5月	日本の歌曲について 「この道」 「椰子の実」 日本の歌曲の歴史について 創作活動						
6月	西洋音楽史 古代ギリシャ〜ルネサンス（鑑賞：グレゴリオ聖歌） 実技テスト 期末考査 讃美歌コンクールにむけて						
7～8月	讃美歌コンクールにむけて						
9月	讃美歌コンクールにむけて 世界の歌に親しむ 「アニー・ローリー」 「おおシャンゼリゼ」 「O sole mio」						
10月	ドイツ歌曲について 「Heidenröslein」 西洋音楽史 バロック〜古典派 （鑑賞：バッハ作曲「フーガ ト短調」、モーツァルト「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」ほか）						
11～ 12月	クリスマス礼拝に向けて「ハレルヤコーラス」 クリスマスの讃美歌について 実技テスト 期末考査 創作活動						
1月	イタリア歌曲について 「Caro mio ben」 西洋音楽史 ロマン派の音楽（鑑賞：ドヴォルザーク作曲「新世界交響曲」ほか）						
2月	音程について 実技テスト 学年末考査						
3月	音楽基礎知識の総復習						

教 科 科 目	保健体育 保 健	学年	4 年	単位	1 単位	担当	猪 寛子
【科目の概要】							
わが国の疾病構造や社会の変化に対応し、健康を保持するためには、ヘルスプロモーションにたいする考え方を生かして健康に関する個人の適切な意思決定や行動選択および健康的な社会環境づくりを行うことが重要であることを理解し、4 学年では、思春期から高齢者まで生涯の各段階における健康課題への対応と保健医療体制や地域の保健・医療機関の適切な活用および環境と食品の保健、労働と健康など社会生活における健康の増進について個人生活のみならず社会生活とのかかわりを含めた総合的な理解を深める。							
【育成をめざす学力】							
個人および社会生活における健康・安全について理解。生涯を通じて自らの健康を管理し、改善していくための能力の育成。							
【評価基準・評価項目】							
・ 個人の健康を理解し、実生活で活用できる。 ・ 専門的な知識を身につけ、社会生活に役立てることができる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4・5 月	1.オリエンテーション、安全教育						
6 月	2. 生涯を通じる健康 ①思春期と健康 ②性意識と性行動の選択③結婚生活と健康						
7 月	④妊娠、・出産と健康 ⑤家族計画と人工妊娠中絶 1 学期期末考査（評価）						
8 月	⑥加齢と健康						
9 月	⑦高齢者のための社会的とりくみ ⑧保健制度と医療費						
10 月	⑨保険制度と保健サービスの活用						
11 月	3.社会生活と健康 ①大気汚染と健康 ②水質汚濁と健康						
12 月	③土壌汚染と健康 ④健康被害の防止と環境対策 2 学期期末考査（評価）						
1 月	⑤環境衛生活動のしくみと働き						
2 月	⑥働くことと健康						
3 月	⑦労働災害・職業病と健康 ⑧健康的な職業生活 学年末考査（評価）						

教 科 科 目	保健体育 体 育	学年	4 年	単位	2 単位	担当	浦元 久美子
【科目の概要】 近年、都市化や生活の利便性による日常生活の体を動かす機会や場所の減少、少子化・高齢化の急激な進展、自由時間の増大等の社会変化など国民意識や価値観の変化の中で、心身ともに健全な生活を営む上で運動やスポーツは不可欠なものになっている。このような運動やスポーツの意義を踏まえると、4 学年は高校生活最初の大切な時期に、授業を通して、運動スポーツの楽しさ、喜びを体験できるようにすることが求められた生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎を培うようにする。							
【育成をめざす学力】 互いに協力して練習や競技が出来るようにするとともに、勝敗についても公正な態度がとれ、健康・安全面に留意して行動できる能力を養うようにする。							
【評価基準・評価項目】 ・ 集団での行動と規律を守り、実生活や学校生活に生かすことができる。 ・ 基礎的技術の習得とゲームができる。 ・ 個人の基礎体力の向上と運動能力を高めることができる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4・5 月	1. 体育実技の受け方のオリエンテーション・安全教育 ①オリエンテーション 集団行動（ラジオ体操含む）						
6 月	2. 体づくり運動 ①体力テスト（握力・上体そらし・長座体前屈・反復横とび・50m走・立ち幅跳び・ボール投げ） ②トレーニング実践（体幹トレーニング・自重トレーニング・サーキットトレーニング・コーディネーショントレーニング・リズムジャンプトレーニング） ③分析						
7 月	④評価						
8 月	3. ソフトバレーボール ①オリエンテーション・安全教育②パス、サーブ						
9 月	③評価						
10 月	⑥ルール説明および審判法						
11 月	⑦ゲーム						
12 月	4. 持久走						
1 月	①シャトルラン等						
2 月	②時間走、スロージョギング						
3 月	③駅伝大会						

教 科 科 目	情報Ⅰ	学年	4 年	単位	2 単位	担当	榎本 紗英
【科目の概要】 情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。							
【育成をめざす学力】 他の教科等の学びとあわせて、Society 5.0 に向けて大きく変化する社会で生きていくための資質・能力を育むものであること。 (1) 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めようとする力。 (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力。 (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画していく力。							
【評価基準・評価項目】 ・効果的なコミュニケーションの実現，コンピュータやデータの活用について理解し，技能を身につけているとともに，情報社会と人との関わりについて理解している。（評価材料：定期考査、小テスト、成果物） ・事象を情報とその結び付きの視点から捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。（評価材料：定期考査・小テスト・成果物） ・情報社会との関わりについて考えながら，問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し，自ら評価し改善しようとしている。（評価材料：成果物・授業態度）							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月～ 9 月	オリエンテーション 第1章 情報社会と私たち （1 情報社会 2 情報社会の法規と権利 3 情報技術が築く新しい社会 ） 第2章 メディアと情報デザイン （1 メディアとコミュニケーション 2 情報デザイン 3 情報デザインの実践 ） 第3章 システムとデジタル化 （1 情報システムの構成 2 情報のデジタル化 ）						
10 月～ 12 月	第4章 ネットワークとセキュリティ （1 情報通信ネットワーク 2 情報セキュリティ ） 第5章 問題解決とその方法 （1 問題解決 2 データの活用 3 モデル化 4 シミュレーション）						
1 月～ 3 月	第6章 アルゴリズムとプログラミング （1 プログラミングの方法 2 プログラミングの実践 ）						

教科 科目	英 語 コミュニケーション英語 I 論理表現 I	学年	4 年	単位	6 単位	担当	古賀直美・千葉敦子 クリスオサリバン
【科目の概要】 英語の 4 技能である Reading・Listening・Speaking・Writing の力をバランスよく育成することを目指します。コミュニケーション英語 I 4 単位、論理表現 I 2 単位として取り扱います。教科内で上手く連携を図り、できるだけ 1 つの流れで授業を進めていきます。教科書で読んだり聞いたりして理解したことをもとに、自分の考えを英語で話したり書いたりする活動を行います。特に英語でスピーチをする力をつけていきます。積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢をもつだけでなく、さまざまな問題に疑問を持ち考える姿勢を大切にしてください。							
【育成をめざす学力】 Reading 速くそして正確にパラグラフごとのテーマと論理展開を見抜く力 テキストを分析的・批判的に読む力 Listening 目的をもって展開を予測しながら聴き、内容を把握する力 Speaking / Writing 与えられた知識を活用して自ら考え、積極的に英語で表現する力							
【評価基準・評価項目】 Speaking：日常的な話題について、ネイティブスピーカーと対話できる。(英検準 2 級レベル) / 自分自身や身近な話題について、2～3 分間のスピーチを即興ですることができる。 Writing：パラグラフ構成を意識して、社会問題について自分の意見を 100 語以上で書くことができる。 ディスコースマーカーとパラグラフ構成を理解しながら、論理的展開を把握することができる。 Reading：まとまった量の英文を読んで大筋を理解し日本語で要約を完成させることができる。多読教材を全員が 1 年間に最低 15 冊読む。 Listening：英検準 2 級レベルの問題を聞いて理解することができる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月	オリエンテーション・発音記号指導	高校英語基礎	AAA Conversation				
5 月	Lesson 1 ～ 2	文・文型	↓				
6 月	Lesson 3 ～ 4	動詞の時制	Speech Presentation 1				
7 月	Lesson 4	助動詞	↓				
8 月	Lesson 5	態	Speech Presentation 2				
9 月	Lesson 5	不定詞					
10 月	Lesson 6	動名詞					
11 月	Lesson 7 ～ 8	分詞					
12 月	Lesson 8	関係詞					
1 月	Lesson 9	比較					
2 月	Lesson 10	仮定法	↓				
3 月	まとめ	品詞など		Speech Contest			

教科 科目	聖書	学 年	4 年	単 位	1 単位	担 当	塩屋 優子
【科目の概要】 今日私たちが生きている社会、自分との関わりの中で、イエスの生涯とその背景を学ぶ。							
【育成をめざす学力】 A. 聖書と教会を理解するための知識を習得し、整理する力。 B. 知識を活用（分類・分析）して聖書や教会を解釈する力。 C. 知識を活用（分類・分析）して自分自身の将来像を展望する力。							
【評価基準・評価項目】 ・聖書の主な内容について理解し、知識を身に着けている。 ・日常生活において生じる様々な問題について、聖書に基づいて考え、判断したり、自分の意見を述べることができる。 ・聖書の授業に興味・関心を持ち、課題等に対して主体的に取り組み課題を解決しようとしている。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月	自己と自己確認の旅の理解						
5 月	ベストセラーとしての聖書 イスラエル民族の歴史としての旧約聖書						
6 月	新しい救いの約束としての新約聖書 パレスチナの風土						
7 月	誕生の地ベツレヘム						
8 月	マリアへの誕生の知らせ						
9 月	イエスの誕生の状況						
10 月	ヘロデ王の支配 ローマの支配						
11 月	洗礼者ヨハネの活動						
12 月	荒野の誘惑 弟子の選び						
1 月	山上の教え タラントのたとえ						
2 月	イエスと富める青年との出会い 愚かな金持ち ペトロの告白						
3 月	十字架と復活						

教科 科目	インテグレーション4	学 年	4 年	単 位	1 単位	担 当	4 学年教師
【科目の概要】 4 学年では、「自分を知り、改善できる生徒の育成」という学年目標のもと、様々な行事や活動を通して、自己を深く見つめ、新たな興味関心を見出し、自分の将来に向けて考える力を身につけていきます。論理コミュニケーション授業、コラム学習、また学年行事「グローバル研修」を通して、情報収集・分析力、論理的思考力、コミュニケーション力、表現力（文章を書いたり、プレゼンテーションしたりする力）を育成していきます。							
【育成をめざす学力】 ・自己の研究課題の発見と情報を収集・分析できる力 ・テーマに関する興味・関心と基本的な知識を身につける力 ・レポート発表のための文章表現力やプレゼンテーションする力 ・根拠を明確にし、説得力のあるスピーチをする力（論理的思考力） ・研究活動に対して、自己評価や相互評価ができる力							
【評価基準・評価項目】 ・グループで協力し、ブレインストーミングやマインドマッピングなどの学習スキルを活用して課題に取り組み、考えを深めることができる。 ・本やインターネットなどから必要な情報を集め、根拠を明確にし、主張をわかりやすく説明することができる。 ・プレゼンテーションに向けて情報を論理的に考察し、わかりやすい資料を作成することができる。 ・指示を正しく理解し、適切な言葉で文章表現をすることができる。 ・自分や他者の成果内容を正しく評価し、それを受け入れ、改善することができる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
1 学期	・Ring（キャリア教育プログラム） ・コラム学習 ・進路について考える～文理選択研究、学部学科調べ など						
2 学期	・Ring（キャリア教育プログラム） ・論理コミュニケーション ・コラム学習 ・将来について考える～My Dream 原稿作成 ・グローバル研修						
3 学期	・論理コミュニケーション ・コラム学習 ・将来について考える～My Dream 原稿作成～完成、発表						